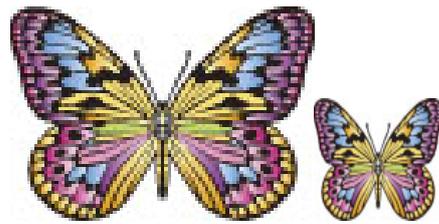


カリキュラムガイダンス

授業科目概要



令和4年度

2年生（12回生）

あさくら看護学校

令和4年度 教職員氏名一覧

名称	氏名	担当領域
校 長	坂 田 高	
校 長 代 理	田 邊 庸 一	
副 校 長	瓜 生 知佳子	地域・在宅看護論
学校担当理事	草 場 信 秀	
健康管理医	安 永 祐 三	
教務主任	伊 藤 哉 女	成人看護学
実習調整者	堀 内 幸 代	老年看護学
専 任 教 員／1 年生担任	星 野 美喜代	基礎看護学
	福本 加津美	母性看護学
専 任 教 員／2 年生担任	皆 元 謙 治	精神看護学
	西 江 綾 美	基礎看護学
専 任 教 員／3 年生担任	宮 川 理 恵	小児看護学
	佐々木 京子	地域・在宅看護論
専 任 教 員／担任補佐	池 田 陽 子	看護統合
実習担当教員	月 俣 里 美	
事 務 長	川 口 昌 弘	
事 務	鳥 越 恵 理	
事 務	原 田 亮 二	
事 務	藤 本 喜 代 美	
事 務	養 父 ミ 子	
函 書 司 書	吉 岡 由 美 子	
	本 田 清 子	

目 次

令和4年度 学年歴	・・・ 1
【基礎分野】	・・・・・・・・・・ 2 ～ 7
情報科学	・・・ 2
家族論	・・・ 3
カウンセリング方法論	・・・ 4
人権論	・・・ 5
人間関係論	・・・ 6
職業の倫理	・・・ 7
【専門基礎分野】	・・・・・・・・・・ 8 ～ 12
疾病と治療Ⅵ	・・・ 8 ～ 9
社会福祉学概論／社会福祉法制論	・・・ 10 ～ 11
関係法規Ⅰ	・・・ 12
【専門分野Ⅰ】	・・・・・・・・・・ 13 ～ 16
臨床看護総論	・・・ 13 ～ 16
【専門分野Ⅱ】	・・・・・・・・・・ 17 ～ 40
成人看護学方法論Ⅱ	・・・ 17 ～ 18
成人看護学方法論Ⅲ	・・・ 19 ～ 20
成人看護学方法論Ⅴ	・・・ 21 ～ 22
老年看護学概論	・・・ 23 ～ 24
老年看護学方法論Ⅰ	・・・ 25 ～ 26
老年看護学方法論Ⅱ	・・・ 27 ～ 28
母性看護学方法論Ⅰ	・・・ 29 ～ 30
母性看護学方法論Ⅱ	・・・ 31 ～ 32
小児看護学方法論Ⅰ	・・・ 33 ～ 34
小児看護学方法論Ⅱ	・・・ 35 ～ 36
精神看護学方法論Ⅰ	・・・ 37 ～ 38
精神看護学方法論Ⅱ	・・・ 39 ～ 40
【統合分野】	・・・・・・・・・・ 41 ～ 45
在宅看護概論Ⅰ	・・・ 41
在宅看護概論Ⅱ	・・・ 42 ～ 43
在宅看護方法論	・・・ 44 ～ 45
【その他：ルール】	・・・・・・・・・・ 46 ～ 52

令和4年度 学年歴

行 事	学 年	予 定 日
入学式	1	令和4年4月7日(木)
入学時オリエンテーション	1	令和4年4月8日(金) 4月11日(月)
健康診断	全	1年生 令和4年4月28日(木) 2年生 令和4年4月21日(木) 3年生 令和4年4月27日(水)
てふてふ祭(学校祭)	全	令和4年6月11日(土)
防災訓練	全	令和4年6月16日(木)
宿泊研修	1	令和4年11月11日(金)～11月12日(土)
夏季休業	1	令和4年8月1日(月)～8月26日(金)
	2・3	令和4年8月1日(月)～9月9日(金)
戴帽式	1	令和4年10月27日(木)
冬季休業	全	令和4年12月22日(木)～令和5年1月4日(水)
看護学会	2	未定
運動会(学校祭)	全	令和5年2月24日(金)
国家試験	3	令和5年2月12日(日) 予定
卒業式	全	令和5年3月2日(木)
春季休業	全	令和5年3月20日(月)～3月31日(金)

授業科目	情報科学	講師名	大久保 博		
	開講年次：2年次前期	単位	時間数		
		1	30時間（試験含）		
授業科目 目標	1. 情報科学の基礎知識や情報整理について学び科学的思考を身につける。 2. 情報と社会の関連について考え、臨床現場に生かす医療情報システムや病院情報システムを理解する。				
ねらい	情報科学の基礎知識や情報整理について学び科学的思考を身につける。又、情報と社会の関連について考え、臨床現場に生かすキャリア・トレーニングの方法を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容	時間	方法		
1.医療情報の基礎	①情報の定義 ②情報化社会	2	講義		
2. 医療と情報システム	①医療情報とは ②看護における情報 ③医療における情報の取り扱い ④電子カルテと病院情報システム	4			
3.情報と倫理	①情報倫理 ②個人情報保護	4			
4.情報処理	①コンピューターの仕組みと情報のデジタル化 ②情報の収集・解析・整理 ③情報のプレゼンテーション	6			
5. PCを用いた演習	①インターネットによる情報の収集 ②Microsoft office を用いた情報の整理と発表	12			演習
6. 試験		2			
評価方法及び 評価基準	筆記試験 80点 演習レポート 20点				
テキスト	中山和弘著 「看護情報学」 医学書院 2020年				
参考文献	講師が授業中に紹介				

授業科目	家族論	講師名	入部 久子		専門領域
					看護師・保健師・助産師 (病院にて看護師として勤務)
	開講年次：2年次前期		単位	時間数	実務経験年数
			1	30時間	3年
授業科目 目標	1. わが国の家族は、少子・高齢化が進む中で育児不安や離婚の増加、高齢者のケアなど諸問題に直面している。このような中で、家族の構造や機能を含めて家族とはなにかについて考える。社会的要因の家族への影響や家族支援など看護師に求められる看護ケアの進め方を学ぶ。				
ねらい	現代の家族像や家族関係について理解を深めるために、家族とは何かを考察し、社会的な諸要因の家族への影響や家族支援などの基礎知識を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 家族とは	①家族の基本概念 ②家族の種類 ③家族の変貌 ④家族看護の視点			4	講義
2. 夫と妻のパートナーシップ (夫婦関係論)	①配偶者選択 ②親族性と性愛の心理 ③夫と妻の役割 ④夫と妻の葛藤と離婚			6	講義
3. 親と子と孫の絆	①ペアレンチング ②母性論 ③父性論 ④祖父母の役割			6	講義
4. 家族と社会	①家族の生活文化 ②地域と親族 ③職場と家族 ④高齢化と少子化が及ぼす影響			2	講義
5. 患者と家族	①患者家族の臨床心理 ②家族の介護機能の揺らぎと反論 ③家族のストレスマネジメント ④患者子族への看護ケア			6	講義
6. 家族支援のアプローチ	①家族システム論 ②家族発達段階論 ③家族への心理教育法 ④家族への心理的援助の方法			6	講義
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	系統看護学講座、「家族看護学」岡堂哲雄編 医学書院 2021年				
参考文献	石川実編 「現代家族の社会学」 有斐閣 1977 正岡寛司編 「現代家族論」 有斐閣 1998 湯沢雅彦編 「データで読む家族問題」 NHK ブックス 2003 岡堂哲雄編 「家族カウンセリング」 金子書房 2000 亀口憲治編 「家族療法」 ミネルヴァ書房 2006 黒田裕子監修 「よくわかる中範囲理論」 学研 2009				

授業科目	カウンセリング 方法論	講師名	岡村 尚昌	
	開講年次：2年次前期	単位	時間数	
		1	30時間(試験含)	
授業科目 目標	1. 私たちは社会生活をしていく中で、自分では処理しきれない困難や悩みに出会うことがある。そのようなときに、クライアントとカウンセラーの人間関係をもとに問題解決を試みようとする。 言語的・非言語的コミュニケーションを通して相手の行動の変容を試みる人間関係の方法を知ること、受容と共感について学ぶ。			
ねらい	言語的・非言語的コミュニケーションを通して相手の行動の変容を試みる人間関係の方法を知ること、受容と共感について学ぶ。			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1. コミュニケーション	①言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション ②よりよいコミュニケーションのために -アーサーション・トレーニング- -交流分析-	14	講義	
2. 人間関係の研究と応用	①人間関係に関する研究 ②各種理論の特質 ③カウンセリングの定義と種類 ④カウンセリングの実際Ⅰ ⑤カウンセリングの実際Ⅱ ⑥カウンセリングの実際Ⅲ ⑦危機的状況の理解とその援助Ⅰ ⑧危機的状況の理解とその援助Ⅱ ⑨自分自身とのよりよい関係づくりのために	14	演習	
3. 試験		2		
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点			
テキスト				
参考文献				

授業科目	人権論	講師名	信友 浩一		専門領域
					医師 (病院(呼吸器内科)にて勤務)
	開講年次: 2年次前期		単位	時間数	実務経験年数
			1	30時間	12年
授業科目 目標	1. 社会的なものの方や考え方を身につけ、偏見や感情や自分の立場に支配されずに現実を見る目を養う。				
ねらい	医療の現場はジレンマでいっぱいです。医療を担う医師・助産師や看護師、そして患者とその家族、更に施設長や専門職団体など、互いに利害が相反する関係の中で治療計画等を作成しないとならないからです。関係する皆が分かり合え腑に落ちる『患者本位の医療』を実現することが期待されています。医療とは症状と不安を通して、患者の人権に責任を感じ配慮し治療計画をつくるプロセスを学んで貰います。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
第1講	自己紹介・医療ナビから、貴方は何を学びたい？			1	講義
第2講	患者のことを我がことのように感じられる？			1	講義
第3講	医療現場のジレンマ、事例から貴方が感じることは？			1	ゼミ
第4講	医療の原点、医師と看護師との関係			1	講義
第5講	患者が医療に期待していること			1	講義
第6講	貴方は『看』護師？ 『患』護師？			1	ゼミ
第7講	期待に応える貴方、行動基準(倫理)は？			1	講義
第8講	人権の誕生、倫理と「人権」			1	講義
第9講	抑制廃止福岡宣言(1998)； 「老人に、自由と誇りと安らぎを」			1	ゼミ
第10講	人権の体系			1	講義
第11講	幸福追求の権利			1	講義
第12講	精神活動の自由			1	講義
第13講	生存権			1	講義
第14講	誤って逮捕された時、労働者/マイノリティの人権			1	講義
第15講	テストと講評				
<備考> ゼミ形式の授業ですので、自らの思いや感じたことを発表できるように、またそれを楽しんでください					
評価方法及び 評価基準	授業への参加20%、+テスト80%				
テキスト	なし				
参考文献					

授業科目	人間関係論	講師名	三原 健吾
	開講年次：2年次後半	単位	時間数
		1	15時間
授業科目 目標	1. 仕事のストレスをどのように捉えるかの学習を深める 2. 自分自身でストレスを捉えることができ、調査票、観察法など多様な方法で測定する方法を学び判定する方法を学び判定できるようになる。 3. 仕事のストレスと関連する疾患（心疾患、うつ等）について理解を深める。		
ねらい	1) 医療従事者に必要な人間関係の基礎知識を習得する 2) 良い人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎を理解する 3) ストレスに関連する疾患（心疾患・うつ等）について理解を深める 4) 人間関係が良好になる技術を身に付ける		
授業計画			
単元名	教育内容		方法
1、人間関係論の基本的視点 2、自分と他者の関係性 3、自分と他者のコミュニケーション、学生の人間関係 4、職場の人間関係、職場のストレス 5、ストレスと病気 6、ストレスと睡眠 7、総括 筆記試験	1、人間関係の基本的な役割 2、自己と他者の関係性 ・主体的自我と客観的自我 ・発達とともに変化する他者との関わり 3、他者とのコミュニケーション ・他者との良好なコミュニケーション ・学生の人間関係の特徴 4、職場の人間関係 ・情緒的関係と機能的関係 ・公式（フォーマル）の関係と非公式（インフォーマル）の関係 ・職場のストレス 5、ストレス学とは何か？ ・ストレス学の概論 ・ストレスマネジメント 6、ストレスと睡眠 ・ストレスと睡眠との関連性 ・睡眠の3要素（量、質、規則性） 7、まとめ		講義
<備考> ＊本講義ではできる限り学生の主体性を重視し、自ら問題を解決できるよう雰囲気づくりをする			
評価方法及び 評価基準	筆記試験70% レポート30%		
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 石川ひろの編 医学書院		
参考文献	図解雑学 ストレス 長嶋洋治監修 渡辺由紀子・渡辺覚著 ナツメ社		

授業科目	職業の倫理	講師名	中村 憲司	
	開講年次:2年次後期	単位	時間数	
		1	15時間	
授業科目 目標	1. 人間としてのあるべき姿、道徳的感受性や倫理の理論を学び、現代の課題を考えるとともに、職業倫理としての社会的意味を学ぶ中で、共感と思いやりの理論を学ぶ。			
ねらい	倫理の理論を学び、現代の課題を考えるとともに、職業倫理の社会的意味を学ぶ。			
授業計画				
			時間	方法
1.	人間であるということ、人間として生きるということー倫理について			講義
2.	「こころ」と「体」としての人間			
3.	職業と倫理 — 専門職としての看護師の職業倫理			
4.	看護倫理 (1) — 看護倫理の基礎			
5.	看護倫理 (2) — 原則の倫理とケアの倫理			
6.	看護倫理 (3) — 専門職の倫理			
7.	看護倫理 (4) — 倫理的問題へのアプローチ			
8.	看護倫理 (5) — 倫理的意思決定のステップと事例検討			
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点			
テキスト	系統看護学講座 「看護倫理」 (医学書院)			
参考文献	講師より紹介			

授業科目	疾病と治療VI 眼科疾患 耳鼻科疾患 歯科口腔疾患 精神疾患	講師名	井上 浩利	専門領域 : 医師 病院(眼科) にて勤務 実務経験 年数 19年
			富田 和英	専門領域 : 医師 病院(耳鼻咽喉科) にて勤務 実務経験 年数 25年
			羽野 和宏	専門領域 : 医師 病院(歯科・口腔外科) にて勤務 実務経験 年数 6年
			吉良 健太郎	専門領域 : 医師 病院(精神科) にて勤務 実務経験 年数 10年
			開講年次 : 2年次前期	
		1	30時間	

授業科目 目標 (ねらい)	眼科疾患、耳鼻咽喉器疾患、歯科口腔疾患、精神疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。
------------------	--

授業計画

単元名	教育内容	時間	方法
《眼科》 (井上講師)	1. 目の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①屈折・調節の異常 ②結膜の病気 ③角膜の病気 ④水晶体の病気 ⑤網膜の病気 ⑥ぶどう膜の病気	6	講義
《耳鼻科》 (富田講師)	1. 耳鼻咽喉の構造と機能 2. 症状と検査 3. 主な疾病と治療 ①耳疾患 ②鼻疾患 ③咽喉疾患	4	
《歯科口腔》 (羽野講師)	1. 歯・口腔の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病の予防・治療 ①齲蝕及び歯髄疾患 ②口腔領域の腫瘍 ③顎関節症	6	
《精神》 (吉良講師)	1. 精神症状及び状態像 ①思考の障害 ②感情の障害 ③知覚の障害 2. 精神障害の診断と分類 ①統合失調症 ②気分(感情)障害 ③神経症性障害 ④生理的障害 ⑤パーソナリティ障害 ⑥器質性精神障害 ⑦心身症 3. 精神科治療 ①身体療法 ②精神療法 ③行動療法およびリラクゼーション ④環境・社会療法 ⑤集団精神療法 ⑥家族療法 4. 社会の中の精神障害 ①精神障害と治療の歴史 ②日本における精神医療 ③精神障害と文化 ④精神障害と社会学 ⑤精神障害と法制度	4	
		6	

<p>評価方法及び 評価基準</p>	<p>眼科 (30 点)、耳鼻科 (30 点)、歯科口腔 (40 点) 筆記試験 合計 100 点 精神疾患 筆記試験 100 点 最終評価は 2 科目の平均点で行う</p>
<p>テキスト</p>	<p>系統看護学講座 成人看護学[13] 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[15] 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院</p>

授業科目	社会福祉学概論	講師名	泉 賢祐		専門領域
					社会福祉士 (病院にて社会福祉士として勤務)
	開講年次：2年次前期		単位	時間数	実務経験年数
			1	15時間	15年
授業科目 目標 (ねらい)	1. 社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し社会保障制度の内容とその背景を理解する。 2. 人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 社会保障制度・歴史	①社会保障の概念・目的・機能・体系			2	講義
2. 社会保障・社会福祉の動向	①現代社会の変化 ②保健医療の動向 ③社会福祉サービスの動向			2	
3. 医療保険	①医療保障制度の沿革と構造 ②健康保険と国民健康保険 ③高齢者医療制度 ④保険診療の仕組み ⑤公費負担医療 ⑥国民医療			6	
4. 介護保障	①介護保険制度の概要 ②介護保険制度の課題と展望			2	
5. 所得保障	①所得保障制度 ②年金制度 ③労働保険制度			4	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉 医学書院				
参考文献					

授業科目	社会福祉法制論	講師名	泉 賢祐		専門領域 社会福祉士 (病院にて社会福祉士として勤務)	
	開講年次：2年次前期		単位	時間数	実務経験年数	
			1	15時間	15年	
授業科目 目標 (ねらい)	社会福祉の法制度及びその活用方法を理解し、臨床現場での他職種との連携に役立てることができる。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
1. 社会福祉法制度 2. 公的扶助 3. 社会福祉サービス 4. 社会福祉実践	①社会福祉の法制度 ①生活保護制度のしくみ ②低所得対策 ③近年の動向 ①高齢者福祉 ②障害者福祉 ③児童家庭福祉 ①社会福祉援助とは ②間接援助技術と関連援助技術 ③連携の重要性 ①連携の場面と方法 ②社会福祉史の枠組み ③社会福祉史の3段階				2 4 6 4	講義
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点					
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院					
参考文献						

授業科目	関係法規 I	講師名	石川 真人	
	開講年次：2年次後期	単位	時間数	
		1	15時間	
授業科目 目標	1. 法律の基礎を学び、人間の生活と健康との関係について理解する。			
ねらい	看護職に就こうとする者は、いざ医療過誤訴訟が発生した場合に、法律上どういうことが問題となり、裁判所はどのような判断を下すのかを知っておくべきであろう。本講義では、まず、法学の基礎を理解したうえで、実際に生じた裁判例を学ぶ。そのことによって紛争を未然に防ぐことも可能となろう。			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1. 法とは何か	①法と常識 ②法と道徳 ③法と強制	2 2 2	講義	
2. 裁判と法	①民事事件と刑事事件 ① 証明責任	2 2		
3. 医療過誤訴訟	①東大梅毒輸血事件における過失 ②未熟児網膜症姫路日赤事件における医療水準 ③レンバール事件における因果関係	2 2		
4. まとめ		1		
評価方法及び 評価基準	筆記試験(80%)と小レポート(20%)の内容を総合的に評価する。小レポートは、授業終了後、感想や疑問などを書いてもらい、次の週に答えるという形で、聴講者の意見を授業内容に反映させる(参加型の授業にする)ためのもの。評価基準は授業内容の理解度。			
テキスト	教科書は使用せず、講師作成のプリント教材を配布する。			
参考文献	必要に応じて講義の中で指示する。			

授業科目	臨床看護総論	講師名	皆元 謙治		専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務)
					実務経験 年数 15年
			伊藤 哉女		専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務)
			実務経験 年数 17年		
			堀内 幸代		専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務)
					実務経験 年数 11年
	開講年次 : 2年次前期・後期		単位	時間数	
			2	90時間(試験含)	
授業科目 目標	1. さまざまな健康上のニーズをもつ人々に、既習の個々の看護技術を統合し、主要症状別看護、経過別看護で疾病・障害をもった患者に対しての看護技術の応用を学ぶ。				
ねらい	<p>臨床の場で看護を実践するためにはその場で何が起きているのかを的確に判断し、その上で患者にとって最もよい看護行為を実践しなければならない。そのためには、その場で何が起きているのかを知識をもとに分析・予測することが必要である。</p> <p>また、場の判断と看護行為を同時進行で実施し、患者にとって最もよい方法とは何かを導き出し、随時修正しながら安全・安楽な看護の実施が求められる。</p> <p>そこで、臨床看護総論では、臨床に近い状況での看護師としての思考過程を学ぶことを重視している。</p>				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
I. 主要な症状を示す対象への看護 (堀内先生)	1. 症状別看護			20時間 ／ 10回	講義 演習
	1) 呼吸機能障害に関連する症状を示す対象者への看護 ①代表的な症状と発生のメカニズム ②呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別の為のアセスメントと看護 呼吸機能障害に関連した主観的・客観的情報 2) 循環障害に関連する症状を示す対象者への看護 ①代表的な症状と発症のメカニズム ②循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメントと看護 循環障害に関連した主観的・客観的情報 3) 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 ①代表的な症状と発症のメカニズム ②認知や知覚に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメントと看護 認知に関連した主観的・客観的情報 4) 安楽に関連する症状を示す対象者への看護 ①安楽に関連する症状のメカニズム ②安楽に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメントと看護 (痛み吐き気嘔吐のアセスメント)				
II. 治療・処置を受ける対象への看護 (堀内先生)	2. 治療処置別看護				
	1) 輸液療法を受ける対象者への看護				
	①輸液療法を必要とする状態				
	②輸液療法に関連する患者のニーズとアセスメント				
	③輸液療法を受ける患者の看護援助				
	2) 化学療法を受ける対象者への看護				
	①化学療法の原理、副作用、目的				

<p>Ⅲ. 医療機器に伴う看護 (皆元先生)</p>	<p>②化学療法を受ける患者・家族への援助（治療前・薬剤投与時・薬物投与後）</p> <p>3) 放射線療法を受ける対象者への看護 ①放射線療法の特徴、目的、流れ ②放射線被爆からの防護 ③放射線療法を受ける患者・家族への援助</p> <p>4) 集中治療を受ける対象者への看護 ①集中治療室の特徴 ②集中治療を受ける対象者とその家族の特徴と看護</p> <p>5) 創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 ①創傷とは何か ②創傷の処置と看護</p> <p>6) 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護 ①IVRとは ②IVRにおける看護師の役割と看護</p> <p>3. 医療機器の原理と看護 ①医療機器の原理と実際 心電図モニタ・人工呼吸器・輸液ポンプ使用の実際</p>	<p>10時間／5回</p>	
<p>I. 看護行為に至る思考過程</p> <p>II. 看護を実施するための思考を使って看護行為を行う (病態から看護へ) (伊藤先生)</p>	<p>【ねらい】 患者に見られる症状や行われている治療を、解剖生理・病態・治療（薬理作用）を一連の流れとして理解し看護の方向性を論理的にみちびきだす。 実際の看護場面を設定し、必要な看護についてシミュレーションを行う。 対象の「今、必要な看護は何か」について病態を結びつけながら考え、看護実践に繋げていく。シミュレーションの実施後に、自分の行為・思考・感情などについて目標に沿って振り返る時間を重要視し、臨床で生きる看護実践についての考え方を身につけてほしい。</p> <p>1回目：オリエンテーション</p> <p>2～4回目：臨床の場面から看護師として必要な考え方を学ぶ 臨床の場面にある出来事を看護師として捉えるために必要な項目を導き出す</p> <p>5～10回目：病態から看護へ：シミュレーション教育の実践 事例提示 事例解釈：課題の抽出（病態・病期・治療など）</p> <p>シミュレーションの実際 (シナリオ提示) ①ブリーフィング（導入） ・目標と学習環境の説明 ・教材の説明</p>	<p>26時間／13回</p>	<p>講義 演習</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ課題の提示 ②シミュレーション（実践） <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ課題について実践 ③デブリーフィング（振り返り） <ul style="list-style-type: none"> ・状態のアセスメント ・状態のアセスメント～観察（フィジカルアセスメント） ・観察の優先順位 ④評価・まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（自己の学びと課題） ・グループ評価 <p>※シナリオ課題について②③を3～4回繰り返す</p> <p>※事前学習をもとに看護実践の根拠を明らかにする</p> <p>※知識確認テストを随時、実施する</p> <p>11～13回目</p> <p>看護行為の裏にある思考過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ①看護行為に至る思考の流れ ②判断と優先順位 ③看護目標と看護 																		
<p>Ⅲ. 看護実践をするための思考を使って看護を行う（複合的な要素がある中での看護実践）</p> <p>（事例による看護実践の展開）</p> <p>（堀内先生）</p>	<p>【ねらい】</p> <p>臨床看護総論Ⅰ・Ⅱを土台とし、実際の看護場面を再現した事例の看護を病態・病期・治療を踏まえた看護を導き出す（医療機器を用いている患者の更衣）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">2</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">3</td> <td> 演習オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ①使用事例：肝硬変で食道静脈瘤の治療を受ける患者 ②演習（グループワーク）の進め方（グループ発表、演習計画の提示） ③事例紹介：事例を読むとはどういうことかについて解説患者の「疾患」「病態」「症状」「治療・処置」を関連付けて身体的状態を把握しながら、なぜ、その留意点なのか？なぜを考える場としたい。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td> 事例のアセスメント（グループワーク） <ul style="list-style-type: none"> 1. 患者の疾患の経過を把握する <ul style="list-style-type: none"> ①それぞれの症状がなぜ生じているのか ②指示されている治療や処置が何のために行われているのか ③症状進行による成り行きは何が考えられるか ④ ①～③を関連付けて、現在の患者の身体の状態を理解する </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td> 2. 情報収集 3. アセスメント・関連図検討会 アセスメントを踏まえてグループで関連図を完成させる </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td> シミュレーション検討会①の準備 事例患者の看護場面（2～3場面）を患者役・看護師役で実施する <ul style="list-style-type: none"> ①看護場面の説明・グループで共有 ②その看護場面で何を・どうするか？ <ul style="list-style-type: none"> ➡なぜ、そうするのか？を重点的に考える ③ ②を踏まえてグループで発表準備を行う </td> </tr> </table>	1	2	3	演習オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ①使用事例：肝硬変で食道静脈瘤の治療を受ける患者 ②演習（グループワーク）の進め方（グループ発表、演習計画の提示） ③事例紹介：事例を読むとはどういうことかについて解説患者の「疾患」「病態」「症状」「治療・処置」を関連付けて身体的状態を把握しながら、なぜ、その留意点なのか？なぜを考える場としたい。 	4	5	6	事例のアセスメント（グループワーク） <ul style="list-style-type: none"> 1. 患者の疾患の経過を把握する <ul style="list-style-type: none"> ①それぞれの症状がなぜ生じているのか ②指示されている治療や処置が何のために行われているのか ③症状進行による成り行きは何が考えられるか ④ ①～③を関連付けて、現在の患者の身体の状態を理解する 	7	8	9	2. 情報収集 3. アセスメント・関連図検討会 アセスメントを踏まえてグループで関連図を完成させる	10	11	12	シミュレーション検討会①の準備 事例患者の看護場面（2～3場面）を患者役・看護師役で実施する <ul style="list-style-type: none"> ①看護場面の説明・グループで共有 ②その看護場面で何を・どうするか？ <ul style="list-style-type: none"> ➡なぜ、そうするのか？を重点的に考える ③ ②を踏まえてグループで発表準備を行う 	<p>28時間／14回</p>	<p>講義／演習</p> <p>講義／演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p>
1	2	3	演習オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ①使用事例：肝硬変で食道静脈瘤の治療を受ける患者 ②演習（グループワーク）の進め方（グループ発表、演習計画の提示） ③事例紹介：事例を読むとはどういうことかについて解説患者の「疾患」「病態」「症状」「治療・処置」を関連付けて身体的状態を把握しながら、なぜ、その留意点なのか？なぜを考える場としたい。 																
4	5	6	事例のアセスメント（グループワーク） <ul style="list-style-type: none"> 1. 患者の疾患の経過を把握する <ul style="list-style-type: none"> ①それぞれの症状がなぜ生じているのか ②指示されている治療や処置が何のために行われているのか ③症状進行による成り行きは何が考えられるか ④ ①～③を関連付けて、現在の患者の身体の状態を理解する 																
7	8	9	2. 情報収集 3. アセスメント・関連図検討会 アセスメントを踏まえてグループで関連図を完成させる																
10	11	12	シミュレーション検討会①の準備 事例患者の看護場面（2～3場面）を患者役・看護師役で実施する <ul style="list-style-type: none"> ①看護場面の説明・グループで共有 ②その看護場面で何を・どうするか？ <ul style="list-style-type: none"> ➡なぜ、そうするのか？を重点的に考える ③ ②を踏まえてグループで発表準備を行う 																

	8	シミュレーション検討会①		演習
	9	事例患者の看護場面の実施		
	10	シミュレーション検討会②の準備 事例患者の看護場面を患者役・看護師役で実施する ①看護場面の説明・グループで共有		演習
	11	②その看護場面で何を・どうするか？ ▶なぜ、そうするのか？を重点的に考える ③ ②を踏まえてグループで発表準備を行う		
	12	シミュレーション検討会②		演習
	13	事例患者の看護場面の実施		
	14	まとめ		講義
IV. 評価		筆記試験 実技試験（*実技試験については事前にオリエンテーションを実施）	6時間	
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学4 臨床看護総論（医学書院）			
参考文献	講義担当講師が初回の講義で提示する			
評価方法及び 評価基準	<p>評価の割合：筆記試験 9割 実技試験 1割 （筆記試験内訳） 症状別・治療処置別看護および医療機器（100点） 臨床判断の思考（100点） 事例による看護実践（100点）</p> <p style="text-align: right;">} 平均を筆記試験結果とする</p> <p>筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする いずれかを受験しない場合は単位認定はしない</p> <p>※筆記試験、実技試験それぞれに60点未満の場合は、再試験対象となる</p> <p>※演習参加状況（事前課題の成果・態度）を総合して評価を行う</p>			

専門分野Ⅱ

令和4年度(2022年)

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ	講師名	河原 朋果	専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 14年
			熊添 智春	専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 19年
			内田 ひろみ	専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 21年
			吉宗 由美子	専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 37年
			西江 綾美	専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 16年
			開講年次 : 2年次前期	
		1	45 (試験含む)	
授業科目 目標	1、急性期にある患者の特徴を理解し、手術療法をうける患者への看護援助や生命の危機的状況にある患者への看護援助を学ぶ。 2、救急看護における知識・技術・態度を学び、看護過程を通し臨床実践能力の向上を図る。			
ねらい	急性疾患や手術療法など生体に大きな侵襲をうける患者を理解し、健康の回復を促進する予防的看護から退院後の健康管理における教育的な指導技術など対象の回復過程に沿いながら、病期に適した看護提供について学ぶ。			
授業計画				
単元名		教育内容	時間	方法
1 2 3 4 5 6 7 8 9	1. 周手術期の看護 術中看護 (河原 朋果先生) 術前術後看護 (熊添 智春先生)	1) 術中看護 手術室での安全管理 手術体位と及ぼす影響 術式・麻酔方法と影響 2) 手術における心身の変化 手術侵襲に対する生体反応 創傷治癒過程 3) 手術前看護 手術療法の理解と手術への意思決定援助 術前指導 術前管理 アセスメントと援助 術後合併症のリスクアセスメント 4) 術後の疼痛管理と術後合併症の予防 早期回復への援助 ボディイメージ変容への援助 術後の機能障害と日常生活援助	6 12	講義
10 11 12 13 14	2. 循環機能障害のある人への看護 (内田 ひろみ先生)	1) 循環機能障害のアセスメント 2) 循環機能障害の症状看護 ポンプ機能障害 輸送還流障害 刺激伝導障害 3) 検査時の看護 心臓カテーテル 心血管造影 心電図 心エコー 4) 治療を受ける患者の看護 PCI ペースメーカー、血栓溶解療法・血栓除去術 5) 心不全、虚血性心疾患患者の病期に応じた看護 6) 不整脈のある患者への看護	10	講義
15 16 17	3. 急性・重症看護 (吉宗 由美子講師)	1) 急性・重症患者の特徴 2) 心肺停止状態の対応 3) 気管挿管時の看護 4) 救急場面で遭遇する症例の看護	6	講義 演習
18 19 20 21 22	4. 急性期看護の看護過程 (西江 綾実先生)	1) 急性期の特徴と機能障害の特徴を踏まえた看護過程 ; アセスメント・看護問題・看護計画・実施・評価 (臨床判断を中心に講義する) 演習 : 胃切除術後患者の看護過程と実際	10	講義 演習
23	筆記試験 (60分)・授業評価アンケート			

評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点 (周手術期 50% 循環器 20% 救急救命 10% 急性期の看護過程 20%) 講師が提示した課題を提出しなければ、単位認定はしない
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護 (河原・熊添講師) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 消化器 (内田講師) 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 (吉宗講師)
参考文献	北島政樹ほか、外科手術と術前・術後の看護ケア、南江堂 窪田敬一、ナースのための再新全科ドレーン管理マニュアル、照林社 坂本すが監修、術前・術後標準看護マニュアル、メヂカルフレンド社 竹田清、ゼロからはじめる麻酔&看護トレーニング、MC メディカ出版 道又元裕監修、イラストでわかる！ICU ナースの生体侵襲ノート、日総研 新見明子、根拠がわかる疾患別看護過程 病態生理と実践がみえる、南江堂 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 自分で描ける病態関連図 照林社 病態生理の基礎のキソ 学研 意味づけ経験知でわかる病態生理看護過程 日総研 疾患別看護過程セミナー 医学芸術社

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ	講師名	樋口 慎吾		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務内准看6年含） 実務経験 年数 21年
	開講年次：2年次後期		単位	時間数	
			1	30時間（試験含）	
授業科目 目標	1. 成人の健康生活を促すための看護とその技術について理解することができる。 ①対象の機能障害の回復とセルフケアの再獲得を支援する看護とその技術について学ぶ。 ②対象の機能障害の適応と慢性病との共存、社会復帰を支援する看護とその技術について学ぶ。				
ねらい	1. 身体の喪失や身体機能の障害をもつ人の、回復期の患者を理解し、その人らしく生活できるための生活過程を整える知識・技術・態度を学ぶ。 2. 事例を通し臨床実践能力の向上を図る。				
授業計画					
単元名		教育内容			方法
1 2 3 4 5 6	I. 治療過程にある患者の看護技術 1. 治療による身体侵襲からの回復促進のための看護技術 (急性期～回復期)	1) 回復期とは（急性回復期から慢性期への移行） 2) 対象の理解 3) 治療による身体侵襲からの回復促進のための看護技術 ①酸素化の促進 酸素療法 吸引 ドレーン管理 ②栄養管理 中心静脈栄養の管理 体液バランスの管理（輸液療法） ③治療に伴う不快症状のコントロール 急性疼痛のアセスメント ④モニタリング モニターの管理 モニターの観察とアセスメント ⑤回復促進の援助技術 感染予防のアセスメント、感染予防の技術、 早期離床のアセスメント（過度な安静の影響）、 早期離床の技術、日常生活援助、 演習）大腸がん患者の看護			講義 演習
7	II. 障害の回復に必要なセルフケアの再獲得の促進の看護	1) 治療によるボディイメージの変化をきたした人の援助 2. 障害への適応と社会復帰への看護 ①障害の受容過程とその援助（自己概念、自尊感情、ボディイメージ、危機理論、国際生活機能分類；ICFの概念） ② セルフケアの再獲得 ③社会参加と社会資源			講義
8 9 10	III. ボディイメージの変化に対する看護とその技術	① 排泄機能障害：人工肛門造設術を受けた患者の看護（ストーマ管理と社会支援） ② 性・生殖機能障害：乳房切除術を受けた患者の看護			講義 演習
11 12 13 14	IV. 慢性疾患と共に生きる患者の生活の再調整を支える看護とその技術	1. 慢性病の治療を受けながら生活の再調整が必要な患者の援助 ①退院支援 2. セルフケアと社会復帰への看護 ①セルフマネジメントとセルフケアの再調整 ②社会復帰と社会資源 演習） ① 慢性腎不全患者の透析療法の看護（シャント管理と社会支援）			講義 演習
15		1) 筆記試験（60分）、まとめ・授業評価アンケート			

評価方法及び 評価基準	筆記試験 90点 課題・レポート等 10点 筆記試験及び課題、レポートの提出をしなければ単位認定はしない
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学総論 成人看護学① ・消化器 成人看護学⑤ ・腎、泌尿器 成人看護学⑧ ・女性生殖器 成人看護学② (医学書院)・ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護
参考文献	大村裕子、カラー写真で見てわかるストーマケア、MCメディカ出版 溝上祐子監修 ナースのためのやさしくわかるストーマケア ナツメ社 その他、授業で紹介します

授業科目	成人看護学方法論Ⅴ (終末期の看護)	講師名	溝上 千代美		専門領域 看護師(緩和ケア認定看護師) 病院にて看護師として勤務
	開講年次: 2年後期		単位	時間数	実務経験年数
			1	15時間(試験含む)	29年
授業科目 目標	1、がん等の治療困難な疾病を持つ患者の終末期の苦痛を理解し、がん看護における緩和ケアを学ぶ。 2、生命の尊厳やQOL等、倫理的配慮を含め事例を通して学ぶ。				
ねらい	1. 治療困難な状態にある対象の特徴を理解し、苦痛のアセスメントと疼痛コントロールのための緩和ケアを学ぶ。 2. 終末期にある成人の身体的苦痛と死の受容過程を理解し、人生の最期の時をその人らしく過ごせるように支える看護の役割を理解する。				
授業計画					
単元名		教育内容			方法
1	緩和ケアの歴史と現状	1) 緩和ケアの歴史と現状 2) 緩和ケアの対象者の広がり 3) チーム医療			講義
2	緩和ケアにおける倫理的課題	1) 倫理学とは 2) 終末期患者のQOLとは 3) アドバンス・ケア・プランニング 4) 意思決定支援			講義
3	緩和ケアにおける看護介入	1) 緩和ケアにおける看護介入 包括的アプローチ 日常生活を整えるアプローチ 個別性を整えるアプローチ 患者の潜在的な力を強める			講義
4 5 6	終末期への看護	1) 終末期にある人の身体的特徴と援助方法 援助方法 ①症状マネジメント 疼痛管理 疼痛以外の症状マネジメント 2) 終末期にある人の心理・霊的特徴と援助方法 3) 終末期にある人の社会的特徴と援助方法 4) グループワーク(事例検討)			講義 及び ワーク
7	家族ケア	1) 終末期にある人の家族および遺族の理解と援助 ① 家族が辿る心理過程 ② 家族アセスメントとケアの方法 ③ 遺族ケア			
8		筆記試験(60分)、まとめ・授業評価アンケート			講義
<備考>					
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点・レポート ※筆記試験及びレポートの提出がなければ単位認定はしない				

テキスト	系統看護学講座 別巻⑩ 緩和ケア (医学書院)
参考文献	授業で紹介します

授業科目	老年看護学概論	講師名	堀内 幸代		専門領域 看護師：病院にて看護師として勤務
	開講年次： 2年次		単位	時間数	実務経験年数
			2	30時間(試験含む)	11年
授業科目 目標	1. 老年看護学の概論を理解し、加齢に伴う身体的・生理的・社会的変化を理解する。 2. 高齢化社会の現状やライフスタイル、ニーズを理解し、老年看護の対象、目的、役割について学ぶ。				
ねらい	1. 老年者を取り巻く社会の動向と老年期の発達課題をふまえた老年者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の特徴を理解する。 2. 高齢社会における保健医療福祉制度や看護活度の場の理解をする。 3. 老年看護における看護倫理について理解する。				
授業内容					
单元名	教育内容			時間	方法
老年看護とは	人口の高齢化に伴う社会変化と老年看護の歴史について触れ、今なぜ老年看護が重要視されているのか理解する			2	講義
高齢者の理解	高齢者とは、どのような人なのかをライフサイクル、健康指標社、社会加などの視点から理解する。また、高齢者にとって健康とは何かを理解する。			2	講義
高齢者が生きてきた世界	高齢者が生きてきた時代での出来事とその時代をどのように生活してきたのか、高齢者のライフストーリーを知り、高齢者の価値観、生活習慣などを理解する			2	講義 グループディスカッション
高齢者の身体的機能変化	加齢変化による身体面の特徴について理解する			2	講義
高齢者の心理社会的変化	老いの自覚や喪失体験などによる心理や認知機能の加齢変化などについて理解する			2	講義
加齢変化と高齢者の生活	1. 疑似体験を体験し、高齢者の生活のイメージする 2. 加齢に伴う機能変化が高齢者の生活に及ぼす影響を理解する			6	グループディスカッション 疑似体験
高齢者看護の基本	1. 高齢者の権利擁護のための看護職の役割、高齢者の看護を行う上での姿勢(倫理)について理解する 2. 高齢者の生活機能のアセスメントやバイタルサインと加齢変化について理解する			4	講義 グループディスカッション
高齢者をとりまく社会	高齢者を支える家族・コミュニティ、社会保障制度について理解する			2	講義
高齢者のヘルスプロモーション	高齢者にとっての健康増進について理解する			2	講義

高齢者を取りまく課題	日本の人口動態からみる高齢社会のかかえる課題について政治、家族、地域を視点に考察する	4	グループディスカッション
評価	筆記試験（60分）・まとめ	2	
評価方法および評価基準	<p>1. 100点満点</p> <p>①筆記試験（90点） ②資料課題・レポート点（10点）の総計</p> <p>2. 課題・レポートのテーマは授業で提示します。</p> <p>*筆記試験は受験し、課題、レポートすべて提出して老年看護学概論の点数とします。未提出の場合は、老年看護学概論の点数はありません。</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 老年看護① 高齢者の健康と障害</p> <p>ナーシンググラフィカ 老年看護② 高齢者看護の実践</p>		
参考文献	授業内で適宜紹介します		
備考	<p>1. 高齢者を理解するには、授業の知識のみではイメージがしづらいので、周りに生活する高齢者を意識しましょう。</p> <p>2. テレビ、新聞等で高齢者のことについてのテレビ番組や新聞記事を読もう</p> <p>3. DVDの鑑賞：積極的に自分の時間をつかい鑑賞しましょう</p> <p>①目で見る老年看護学VOL1・2・3（高齢者の生理学）</p>		

専門分野Ⅱ

令和4年度(2022年)

授業科目	老年看護学方法論Ⅰ	講師名	馬田 聡美		専門領域 : 看護師(病院にて看護師として勤務)
					実務経験 年数 31年
			長尾 一樹		専門領域 : 看護師(認知症看護認定看護師)病院にて看護師として勤務)
					実務経験 年数 16年
		堀内 幸代			専門領域 : 看護師:病院にて看護師として勤務
				実務経験 年数 11年	
開講年次: 2年次			単位	時間数	
			1	30(試験含む)	
授業科目 目標	1. 老年期の健康状態を疾病と老化の側面から把握し、生活機能の観点からアセスメントすることで看護を展開する方法を学ぶ。				
ねらい	老年期の健康状態を疾病と老化の側面から把握し、高齢者の「生活機能」に焦点をあてた看護の方法を学ぶ。 1. 健康障害が、生活に及ぼす影響について理解できる。 2. 高齢者の特徴とケアの必要性についてエビデンスを明確にし、事故防止の観点で理解できる。 3. 認知機能の低下のある高齢者の生活の特徴がわかる。 4. 高齢者の生活の場について理解できる。				
授業内容					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 高齢者の生活を 支える看護 (馬田聡美先生)	1. 食生活を支える看護 2. 排泄を支える看護 3. 清潔・衣生活を支える看護 4. 活動と休息を支える看護 5. 歩行・移動を支える看護			6	講義 ワーク
2. 認知機能の低下 のある高齢者の理 解 (馬田聡美先生)	1. 高齢者の認知症の特徴 ① 病態 ②人権 ③看護 2. 高齢者のうつ病の特徴 ① 引き起こす要因 ②看護 3. 高齢者のせん妄の特徴 ① 引き起こす要因 ②看護			6	講義 ワーク
4. 高齢者の生活の 場 (馬田聡美先生)	1. 長期療養施設で生活する高齢者の特徴と看護 ①介護保険施設 ① 地域密着型サービス ② デイケア・デイサービス 2. 在宅で生活する高齢者の特徴と看護 ①在宅での療養生活の現状 ②在宅療養をささえる看護と社会制度			4	講義 ワーク
5. 認知機能の低下 のある高齢者の 理解(長尾一樹 先生)	・認知症の病態と要因 ・認知症の症状の理解とケア ・認知機能の評価方法 他			2	講義
6. 高齢者に特有な	1. 加齢に伴う機能変化(感覚器機能低下)および			12	演習

<p>看護技術 (堀内先生)</p>	<p>認知症高齢者とのコミュニケーションについて理解する。</p> <p>1) アセスメントツールの使用体験 2) コミュニケーションの取り方</p> <p>2. 高齢者に実施する看護技術を高齢者の特徴と事故防止を予測した視点を理解できる。</p> <p>1. 食事介助：誤嚥の可能性のある患者 2. 排泄介助： ベッド上での排泄 3. 活動：</p> <p>① 転倒予防・排泄の援助； (ポータブルトイレ排泄)</p> <p>② レクリエーション： 活動性を高める目的で実施 対象：車いすを利用している高齢者 認知機能低下のある高齢者</p>		
<p>評価</p>	<p>筆記試験 まとめ 授業アンケート</p>	<p>2</p>	
<p>評価方法および評価基準</p>	<p>1. 100点満点</p> <p>① 筆記試験：馬田先生（60点） 堀内先生（30点） ② 課題・レポート点（10点）</p> <p>*筆記試験は受験し、課題、レポートすべて提出して老年看護学方法論Ⅰの点数とします。未提出の場合は、老年看護学方法論Ⅰの点数がありません。単位認定しません。</p>		
<p>備考</p>	<p>身近におられる高齢者と積極的に交流をはかり、高齢者の機能変化の特徴がイメージできるようにしましょう。</p> <p>授業時間だけで理解することは難しいと思われるので、予習、復習をしっかりとしましょう。</p>		
<p>テキスト</p>	<p>ナーシンググラフィカ 老年看護①高齢者の健康と障害 ナーシンググラフィカ 老年看護②高齢者看護の実践</p>		
<p>参考文献</p>	<p>図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護技術 亀井智子 医学書書院 ・エビデンスに基づく高齢者の看護ケア 後関容子 中央出版 ・生活機能からみた老年看護過程 山田りつ子医学書院 ・高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコール 石坂和子 日本看護協会 ・認知症に関する図書 <p>DVD</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目で見る老年看護学 高齢者の看護援助 4. 急性期から症状安定期までの看護 5. 回復期リハビリテーションから在宅に向けての看護 6. 寝たきり高齢者の在宅看護 7. 認知症高齢者の看護 		

授業科目	老年看護学方法論Ⅱ	講師名	福嶺 初美		専門領域：看護師（老人看護専門看護師）：（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 34年
			堀内 幸代		看護師：病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 11年
	開講年次：2年次		単位	時間数	
			1	30時間（試験含む）	
授業科目 目標	1.健康障害のある高齢者を理解し、疾病予防・健康の回復・保持促進の視点を含め、看護過程の展開を通し看護実践能力を養う。				
ねらい	多重疾患を持つ高齢者の病態を加齢に伴う機能変化との関連づけた理解をし、「生活者」とした高齢者の捉え方に応じた看護の特徴を理解することができる。 1. 高齢者に特有な疾患、症候の特徴と看護を理解できる。 2. 高齢者の病期の段階に応じた看護の特徴を理解できる。				
授業内容					
単元名	教育内容			時間	
1. 継続看護Ⅱ 治療を受ける高齢者の看護 (堀内先生)	1. 薬物療法 2. 手術療法 3. リハビリテーション 4. 入院、退院			8	講義 ワーク
2. 高齢者の疾患・症候の看護 (福嶺先生)	6. 高齢者に起こりやすい疾患 7. 老年症候群 8. 看護過程 事例展開			16	講義 ワーク
3. 事故の予防と急変・救急時の対応 (福嶺先生)	1. 災害に被災した高齢者の看護			2	講義
4. 終末期の看護 (福嶺先生)	1. 老年期の終末期ケアの特徴 2. 家族への看護			2	ワーク
5. 評価	1. 筆記試験 2. まとめ 授業評価アンケート			2	
評価方法および評価基準	1. 100点満点 筆記試験 100点満点 内訳：福嶺先生 70点+堀内先生 30点 ＊筆記試験は受験し、課題、レポートすべて提出して老年看護学方法論Ⅱの点数とします。未提出の場合は、老年看護学方法論Ⅱの点数がありません。 単位認定はしません。				
テキスト	ナーシンググラフィカ 老年看護① 高齢者の健康と障害 ナーシンググラフィカ 老年看護② 高齢者看護の実践				

参考文献

- ・老年看護技術 亀井智子 医学書書院
- ・エビデンスに基づく高齢者の看護ケア後関容子 中央出版
- ・生活機能からみた老年看護過程 山田りつ子 医学書院
- ・高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコール 石坂和子 日本看護協会
- ・高齢者の望む平穏死を支える医療と看護 長尾和宏メディカ出版
- ・老年看護学 概論と看護の実践 第6版 奥野茂子 スーベルヒロカワ

※講義内で随時紹介します

専門分野Ⅱ

令和4年度(2022年)

授業科目	母性看護学方法論Ⅰ	講師名	井手 輝実		専門領域：看護師 助産師（病院にて看護師・助産師として勤務）
					実務経験 年数 38年
			小山田 加奈子		専門領域：看護師 助産師（病院にて看護師・助産師として勤務）
					実務経験 年数 20年
開講年次：2年次前期			単位	時間数	
			1	30時間（試験含）	
授業科目 目標	1. 妊娠・分娩・産褥期における対象理解と健康の保持促進の看護を学ぶ。 2. 新生児の看護と保健指導の意義を理解する。				
ねらい	1. 母性看護とは、エンパワメントの効果を活かし、ウェルネスの考えで健康上のライフイベントの課題に取り組む看護であることが理解できる。 2. 正常な生殖・妊娠期・分娩期及び胎児・新生児の正常(生理的変化)・異常をアセスメントしそれに関連したケアの方法、保健指導(家族を含めた)の必要性を理解できる。 3. 母性看護の対象者及び家族の発達過程・健康レベルを把握し、それぞれのセルフケア能力を高める看護方法を理解できる。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
Ⅰ 母性看護の実践を支える概念 (井手先生)	母性看護概論の学びを振り返り、母性看護の基盤となる概念とは何か理解できる ① セルフケア、エンパワメント、ウェルネスの言葉を理解できる ② 母性看護の視点を理解できる ③ 女性とその家族を中心としたケアを重視する看護の必要性が理解できる			0.5	講義
Ⅱ 妊娠期における看護師の役割 (井手先生)	妊娠期の女性と胎児、家族がより健康な状態を維持し出産・育児に備えることの必要性が理解できる			0.5	講義
Ⅲ 妊娠期における看護 (井手先生)	妊娠各期の妊婦および家族の看護について理解できる ① 妊娠に関する定義・妊娠の成立・胎児の成長・妊娠の生理が理解できる ② 妊娠期の身体・心理・社会的変化を理解できる ③ 妊婦、胎児アセスメントができ、妊婦の保健指導、家族指導の必要性が理解できる			6	講義
Ⅳ 妊婦の看護に関わる技術 (井手先生)	妊婦の健康状態・胎児の発育健康状態の評価の方法が理解できる。 妊娠中の健康維持とマイナートラブルの予防について適切なアドバイスの必要性が理解できる ① 妊娠アセスメント技術：問診、視診、聴診、レオポルド触診法、計測診、臨床検査② 内診の援助 ③ 乳房観察とアセスメント ④ 超音波診断法 ⑤ 超音波ドプラ法(胎児心音の聴取) ⑥ NST(ノンストレステスト) ⑦ 食事と栄養の支援 ⑧ 日常生活動作 ⑨ 妊娠中の運動 ⑩ マイナートラブルへの対処 ⑪ 出産・育児準備教育			4	講義 演習
Ⅴ 妊娠期の看護過程 (井手先生)	妊娠期の異常と看護(切迫早産の看護過程)			1	講義 GW
第4章 分娩期における看護 (小山田先生)	分娩期の産婦の看護、分娩の経過に伴う身体・心理・社会的変化を理解し、アセスメントおよび援助の実際を学ぶ。 A. 分娩の要素 B. 分娩の経過および胎児モニタリングの理解(知識・技術) C. 産婦と胎児の健康状態・家族のアセスメント D. 産婦と家族の看護(出産体験が肯定的になる)			14	講義 GW

看護過程<分娩期>	E. 分娩期の看護の実際(おこりやすい問題と看護) * 事例による看護過程の展開(産婦の看護)		
第2章 産婦看護に関わる技術 (小山田先生)	産婦ケア技術 産痛緩和(圧迫、呼吸、マッサージ、安楽な体位、フリースタイル)	4	演習
評価	筆記試験(井手先生 40点 / 小山田先生 60点)		
テキスト	ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実際 ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版		
参考文献	改訂6版 母子保健マニュアル(南山堂) ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程(医歯薬出版株式会社) 実践看護技術学習支援テキスト母性看護学(日本看護協会出版会) 病気が見える Vol10 産科第二版 メディックメディア発行 母性看護学 I・妊娠・分娩 第二版 医歯薬出版株式会社		
評価方法及び評価基準	筆記試験 * レポート課題、GW 評価、小テスト及び課題発表での参加・発表態度を評価の参考とする。 * 筆記試験及び講師が提示した課題を提出しなければ母性看護学方法論 I の点数はない・単位認定は認められない		

専門分野Ⅱ

令和4年度(2022年)

授業科目	母性看護学方法論Ⅱ	講師名	小山田 加奈子		専門領域：看護師 助産師（病院にて看護師・助産師として勤務）
	開講年次：2年次前期		単位	時間数	
			1	30時間	
授業科目 目標	1. 産褥期の看護、正常分娩の経過からハイリスクな状況の人々の分娩経過とその看護を学ぶ。 2. 新生児の看護と産後の保健指導を理解し看護過程の展開を通して臨床実践能力の向上を図る。				
ねらい	1. 正常な産褥期および新生児期における(家族機能も含めた)看護支援を理解できる。 2. 対象者および家族の発達過程・健康レベルを把握し、対象者・家族のセルフケア能力を高める看護方法の探究を行い、更に母子を取り巻く社会に対応した看護支援のあり方を理解できる。 3. プライマリヘルスの視点から、母子相互作用と健康支援を考えることができる。				
授業計画					
單元名	教育内容			時間	方法
第9章 新生児期における看護 看護過程<新生児期>	新生児の看護では、出生を境にした胎児から新生児への生活環境および生理的な変化を理解し、児の正常な発達を援助する。 A. 新生児の生理 B. 新生児のアセスメント C. 新生児の看護 * 事例による看護過程の展開(新生児の看護)			6	講義 GW
第6章 産褥期における看護 看護過程<産褥期>	産褥期の褥婦および家族の看護について、褥婦の身体的変化を理解し、産褥経過の診断、褥婦の健康状態のアセスメント、および褥婦・家族の心理的・社会的変化の理解を通して学ぶ。 A. 産褥経過 B. 褥婦のアセスメント C. 褥婦と家族の看護 D. 施設退院後の看護(育児・母乳哺育・社会資源・職場復帰) * 事例による看護過程の展開(褥婦の看護)			8	演習
第3・5・8章 妊娠・分娩・産褥の異常	妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児におこる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。 A. 妊娠の異常と看護 B. 分娩の異常と看護 C. 新生児の異常と看護 D. 産褥の異常と看護 E. 精神障害合併妊婦と家族の看護			6	講義 GW
第3章 褥婦の看護に関わる技術	褥婦アセスメント技術 ①悪露交換 ②子宮底の観察 ③乳房の観察			4	演習
第4章 新生児の看護に関わる技術	新生児ケア技術 ①抱き方・寝かせ方 ②衣類・おむつの交換 ③沐浴			4	演習
9. 評価・まとめ	筆記試験			2	
テキスト	ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実際 ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版				
参考文献	改訂6版 母子保健マニュアル(南山堂)				

	<p>ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程(医歯薬出版株式会社)</p> <p>実践看護技術学習支援テキスト母性看護学(日本看護協会出版会)</p>
評価方法及び評価基準	<p>筆記試験</p> <p>※レポート課題、GW 評価、小テスト及び課題発表での参加・発表態度を評価の参考とする。</p> <p>*筆記試験及び講師が提示した課題を提出しなければ母性看護学方法論Ⅱの点数はない・単位認定は認められない</p>

授業科目	小児看護学方法論Ⅰ	講師名	宮川 理恵		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 16年
	開講年次：2年次前期		単位	時間数	
			1	30時間（試験含む）	
授業科目 目標	1.健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセスメントを学ぶ。 2.小児と家族のおかれた環境、生活に適応できるための援助を理解する。				
ねらい	子どもの発達段階と健康レベルに応じた日常生活の援助方法の知識と技術を習得する。				
授業計画					
回数	単元名	教育内容	時間	方法	
1	援助関係を形成する技術	1.援助関係を形成するうえで必要な基礎知識 2.子どもとの援助関係を形成する技術 3.家族との援助関係を形成する技術	2	講義	
2 3 4 5 6	子どもにみられる主な症状と看護	1.子どもにみられる主な症状と看護① 1)不機嫌 2)啼泣 3)痛み 4)意識障害・けいれん 1.子どもにみられる主な症状と看護② 5)発熱 6)発疹 1.子どもにみられる主な症状と看護③ 7)下痢・嘔吐 8)脱水 1.子どもにみられる主な症状と看護④ 9)呼吸困難	10	講義	
7 8 9 10	検査・処置を受ける子どもの看護	1.検査・処置を受ける子どもの看護① 1)子どもへの説明と同意（プレパレーション） 2)バイタルサイン 3)身体測定 1.検査・処置を受ける子どもの看護② 1)検体採取（採血・採尿） 2)酸素療法 3)吸引・吸入 1.検査・処置を受ける子どもの看護③ 1)与薬 2)輸液管理 3)腰椎穿刺 4)安全・安楽を考慮した行動制限	8	講義 DVD 視聴	
11 12	子どもの受ける看護技術	1.安全・安心な療養環境づくり 2.食事の援助技術 3.排泄の援助技術	4	講義	
13 14	小児における看護技術	1.バイタルサインと身体測定 2.処置を受ける子どもの看護技術	4	モデル人形を使用した演習	

15	試験	試験 60 分+授業 30 分 授業アンケート	2
評価方法・評価基準	筆記試験 100 点 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定しません		
テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・これだけは知っておきたい 小児ケア Q&A 編集 五十嵐隆 総合医学社 2011 ・小児看護 第2版 パーフェクト臨床実習ガイド 監修 筒井真優美 照林社 2017 ・根拠と事故防止から見た 小児看護技術(第2版) 編集 浅野みどり 医学書院 2017 他、授業内で適宜紹介します		

専門分野Ⅱ

令和4年度(2022年)

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	講師名	宮川 理恵		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 16年	
			林 さおり		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 年	
			野尻 千恵		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 年	
			開講年次：2年次前期～後期		単位 1	時間数 30時間（試験含む）
授業科目 目標	1. 小児の疾病・障害の病態を理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2. 小児の成長・発達をふまえたアセスメント力を高め、健康課題を理解する中で臨床実践能力の向上を図る。					
ねらい	1. 小児の疾患や病態について理解し、健康障害を持つ小児とその家族の看護を学ぶ。 2. 事例を使用して健康障害をもつ小児と家族の看護過程を展開する。					
授業計画						
单元名		授業内容			時間	方法
1 2 3 4	I. 看護過程 の展開 (宮川先生)	1. 小児の看護過程 疾患や入院が発達段階や家族へ及ぼす影響を考え、アセスメントから 計画立案まで行う			8	講義 演習
5 6 7 8 9	II. 小児に多 い代表的な疾 患の看護 (宮川先生)	2. 小児の代表的疾患看護 病態や検査・治療の介助について理解する ことができる 1) 急性期にある子どもと家族への看護 (1) 急性期の特徴 (2) 気管支喘息 麻疹 水痘 川崎病 2) 手術を受ける子どもと家族への看護 (1) 肥厚性幽門狭窄症 ファロー四徴症			10	講義 演習
10 11 12 13	(林さおり先 生)	3) 慢性期にある子どもと家族への看護 (1) 慢性期の特徴 (2) I型糖尿病 ネフローゼ症候群 4) 血液・造血器疾患のある子どもへの看護 (1) 急性白血病 5) 運動器疾患のある子どもへの看護 (1) 上腕骨顆上骨折 先天性股関節脱臼			8	講義 D V D
14	III. 小児の事 故・救急処置 (野尻千恵 先生)	3. 小児に多い事故と救急処置 家庭内で起こりやすい事故の要因や 初期対応が理解できる			2	講義 演習 D V D
15	評価	筆記試験 60分+授業 30分 授業アンケート			2	
〈備考〉小児看護学方法論Ⅰの学びを基本に小児と家族の看護を考えていきます。実習の前に発達段階の特徴を理解し、看護過程の展開を十分に習得しておく必要があります。						
評価方法及び評価基準		筆記試験 100点				

	I・II 1)、2) : 宮川先生 70点、 II 3) 4) 5)・III : 外部講師 30点 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定はしません。
テキスト	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 ナーシンググラフィカ 小児看護技術
参考文献	授業内で紹介します

授業科目	精神看護学方法論Ⅰ	講師名	田中 みとみ		専門領域	
	開講年次：2年次前期			単位	時間数	看護師 (病院にて看護師として勤務)
				1	30時間(試験含)	実務経験年数 49年
授業科目 目標	1. 精神を病む人への看護援助を学ぶ中で、精神看護師の役割及び知識・技術・態度を理解し対象に応じた援助を学ぶ。					
ねらい	現代の精神医療をとりまく状況が急速に変化し、精神科病院の長期入院は確実に短縮傾向にある。精神障害者支援の法制度も次々と更新し訪問看護も広がってきている。その視点での精神障害を持つ人を理解することは入院のみならず地域に目をむけ人々とその家族の支援に生活者としてポジティブにかかわる必要がある。 本単元は精神のみならず身体の側面をも十分に注目し精神看護の援助の基本を学習することがねらいである。					
授業計画						
単元名	教育内容			時間	方法	
第8章 ケアの人間関係	A ケアの前提 B ケアの原則 C ケアの方法 (「D関係をアセスメントする」は後期に行います) E 患者－看護師関係における感情体験 F 対処のむずかしい場面 G 医療の場のダイナミクス			24	講義 レポート ミニテスト	
第9章 回復を助ける	A 回復の意味 B 入院治療の目的と意味 C 治療的環境をつくる					
第10章 安全をまもる	A リスクマネジメントの考え方と方法 B 緊急事態に対処する C 院内を中心とした災害時のケア					
第11章 身体をケアする	A 精神科における身体のケア B 身体にあらわれる心の痛み C 精神科の治療と身体のケア D 日常から気をつけておきたい身体合併症 E 精神科における身体のケアの実際 F 睡眠の援助 G 身体の問題へのグループアプローチ					
第14章 リエゾン看護	A 身体疾患をもつ患者の精神保健 B リエゾン精神看護とその活動 C リエゾナーズの活動の実際 D 看護師の精神的健康への支援					
終章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	A 看護師の不安と防衛 B 感情労働としての看護 C 看護師の感情ワーク D 看護における共感の光と影 E 感情労働の代償と社会 F レジリエンスを高める			4	講義 レポート ミニテスト	

<p>第12章 サバイバーとしての患者とそのケア</p> <p>第13章 地域における精神保健と精神看護</p> <p>試験</p>	<p>※テキストは精神看護の基礎①と展開②を持ってきてください</p> <p>A 受け入れがたい行動を示す患者たち B 心的外傷への着目 C 回復への道程</p> <p>A 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える B 地域で生活するための原則 C 生活を支えるための社会資源・サービス D 地域での看護の実際 E 学校における精神保健と精神看護 F 職場における精神保健と精神看護 G 災害と精神看護</p> <p>筆記試験 及び まとめ</p>	<p>2</p>	<p>試験</p>
<p>〈備考〉</p>			
<p>評価方法及び 評価基準</p>	<p>筆記試験 100 点 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定しません</p>		
<p>テキスト</p>	<p>武井麻子： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2）精神看護の展開 医学書院 国民衛生の動向</p>		
<p>参考文献</p>	<p>田中恵美子： 精神看護学 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2008 年 南 裕子： セルフケア概念と看護実践 へるす出版 1999 年 スティーブ J.ガバナ： 看護モデルを使う①オレムのセルフケア・モデル 医学書院 2000 年 マジョリー・ゴードン： ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院 2009 年 長谷川浩： 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 2013 年</p> <p>他は授業の中で紹介します。</p>		

専門分野Ⅱ

令和4年度(2022年)

授業科目	精神看護学方法論Ⅱ	講師名	安本 圭一		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）
					実務経験 年数 25年
			平山 顕行		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）
	皆元 謙治		実務経験 年数 20年		
開講年次：2年次後期		単位	時間数		
		1	30時間（試験含）		
授業科目 目標	1. 患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己理解、他者理解のための知識・技術・態度を学ぶ。2. 精神障害の特徴的な症状とその看護を理解する。				
ねらい	患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己・他者解のための知識・技術・態度を身に着ける必要がある。更に、看護を展開するための専門的援助関係の構築技術を学ぶ				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
第8章 ケアの人間関係 (平山顕行先生)	A ケアの前提 B ケアの原則 C ケアの方法 D 関係をアセスメントする E 患者－看護師関係における感情体験 F 対処のむずかしい場面 G 医療の場のダイナミクス 【セルフケア理論】 ※プロセスレコードでは、『自己理解・他者理解を深める プロセスレコード第2版』を持って来て下さい			16	講義 演習
コーチング (安本圭一先生)	専門的援助関係の構築の技術 1. コーチング 4. 承認のスキル 2. 傾聴の技術 3. 傾聴の実践			6	講義 演習
皆元先生	精神症状のアセスメントとケアプランの展開 1. 幻覚のある患者の看護 2. 妄想のある患者の看護 3. うつのある患者の看護			6	講義 演習
試験	筆記試験 及び まとめ			2	試験
〈備考〉 再構成については、①2年次の臨地実習時に経験した場面を題材とし理解を深めると判りやすいので情報をあつめておくことと取り組みやすい。					
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点 （平山先生 60点 安本先生 20点 皆元先生 20点） 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定はしません				
テキスト	武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2）精神看護の展開 医学書院 2019年 自己理解・他者理解を深める プロセスレコード2版（長谷川雅美）				

<p>参考文献</p>	<p>宮本真巳： 援助技法としてのプロセスレコード 精神看護出版 2007年 平木典子： カウンセリングとは何か 朝日選書 2003年 東京大学医学部心療内科TEG研究会 新版 TEGⅡ 解説とエゴグラム・パターン 金子書房 2007年 田中恵美子： 精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2008年 南 裕子： セルフケア概念と看護実践 へるす出版 1999年 スティーブンJ.ガバナ： 看護モデルを使う①オレムのセルフケア・モデル 医学書院 2000年 マジョリー・ゴードン： ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院 2009年 平澤久一： 精神科看護の非言語的コミュニケーションUP術 メディカ出版 2010年 岩崎弥生： 新体系看護学全書 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 2016年 長谷川雅美： プロセスレコードが書ける 読める 評価できる本 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 第2版 日総研出版 2017年 精神症状のアセスメントとケアプラン 32の症状とエビデンス集 編著 川野雅資 発行者 小倉啓史 (株)メヂカルフレンド社 2019年1月30日第1版第7刷発行 (他は授業の中で紹介します)</p>
-------------	---

授業科目	在宅看護概論 I	講師名	岩橋 千代		専門領域 専門領域: ()
	開講年次: 2年次前期		単位	時間数	実務経験年数
			1	15	年
授業科目 目標	1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基本概念を学ぶ。 2. 在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史の変遷を学び、在宅看護の意義や目的、更に他職種との連携を理解する。				
ねらい	1. 在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史の変遷を学ぶ 2. 在宅看護の意義や目的を理解する 3. 在宅看護の課題や展望について考える				
授業計画					
回数	単元名	教育内容			方法
1	在宅看護論とは	1、在宅看護論を学ぶ意義			講義
2	在宅看護論の目的と特性	・在宅看護を学ぶにあたって・在宅看護論を学ぶことの意味 在宅看護にかかわる現状			講義 グループワーク (発表)
3	在宅看護の背景	1) 在宅看護を必要とする人々の増加 2) 在宅療養を志向する国民のニーズの増大 3) 療養者を支える基盤の脆弱化			
4	在宅療養と在宅看護について	1、在宅療養をすることと在宅を支える看護とは 2、在宅看護の特性 3、在宅看護の内容 4、在宅看護にかかわる看護師に求められる能力			講義 DVD 視聴 グループワーク (発表)
5					
6					
7		1、在宅ケア・在宅看護・訪問看護の定義と位置づけ ・在宅看護とは ・在宅で看護を行うために重要なこととは			講義
8	評価・まとめ	筆記試験(60分)			試験
<p><備考>在宅看護概論 I は、在宅看護の意義・目的を学ぶことだけに留まらず、社会情勢の中で社会に求められ変化し続ける看護の現状と今後の看護の方向性を考えてほしい。在宅看護を考える中で必要な「価値観」についても授業を通して考えてほしい。また、看護の本質について考えるきっかけとなってほしい。在宅看護論は、学びあいながら進めていきます。授業に際しては積極的に参加をしてほしいと願っています。在宅看護の変遷については、レポート提出とします。詳細は後日伝えます。 最期の講義のときに、授業評価のアンケートをとります。 ・授業は15時間ですが、授業の準備と授業後に学びとしての時間をとってください。</p>					
評価方法及び 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験 90点 レポート 10点 (在宅看護の変遷) 合計100点 <p>*筆記試験の受験と、レポート提出が在宅看護概論 I の点数の条件です。未提出及び期日を守らない場合は、在宅看護概論 I の点数はありません。単位認定できません。</p>				
テキスト	MC メディカ出版 地域療養を支えるケア				
参考文献	1) 杉本正子: 在宅看護論実践をことばに: ヌーベルヒロカワ 2) 渡辺裕子: 在宅看護論概論編 I 第2版: 日本看護協会出版社 3) 渡辺裕子: 在宅看護論実践編 II 第2版: 日本看護協会出版社 4) 松野かほる: 系統看護学講座専門4 在宅看護論 5) 高崎絹子: 在宅看護論: 医学芸術社				

授業科目	在宅看護概論Ⅱ	講師名	岩橋 千代		専門領域：
			長尾 一樹		実務経験 年数 年
	開講年次：2年次前期	単位	時間数		
		1	15時間		
授業科目 目標	1. 在宅看護の対象となる人とその家族を理解し在宅で療養する看護の実際を学ぶ。 2. 療養者が生活する地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響が理解できる。				
ねらい	1. 在宅看護の対象となる地域で生活する人とその家族を理解する ①地域で生活する療養者と家族を理解する ②家族形態の変化と家族の役割、介護と家族の関係について理解する ③地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響を理解する				

授業計画

回数	単元名	教育内容	方法
1	在宅療養者の特徴 (長尾一樹先生)	1) 訪問看護ステーションの法的位置づけ 2) 法律から見た対象	講義 演習
2		2) 対象者の特性 ・高齢者 ・高齢者の在宅看護の視点	講義 DVD視聴
3		1) 対象者の特性 ・難病 ・難病患者の在宅看護の視点	講義 DVD視聴
4		1) 対象者の特性 ・小児 ・小児の在宅看護の視点	講義 DVD視聴
5		1) 対象者の特性 ・精神疾患療養者 ・精神の在宅看護の視点	講義 グループワーク
6	在宅看護と現代家族	1) 家族の機能 2) 在宅療養者と家族・現代家族の変遷、家族を取り巻く社会背景 ・介護者としての家族の理解(家族のニーズとアセスメント)	グループワークの発表
7	地域で療養する人の理解	1) 地域とは 2) 地域の環境が生活に及ぼす影響 3) 地域のアセスメント	講義
8	評価・まとめ	筆記試験(60分)	試験

<備考>今後看護過程を展開する上においても在宅看護の特徴を明確にする事は重要である。在宅看護概論Ⅰで学んだ在宅看護の目的を活用しながら具体的に在宅看護での対象の特徴を理解してほしい。在宅看護論は、学びあいながら進めていきます。グループワークを行い、発表をする・聞くことで学びの共有ができることを期待します。講義の最終日に授業評価のアンケートを行います。・授業は15時間ですが、授業の準備と授業後に学びとしての時間をとってください。

評価方法及び 評価基準	筆記試験 90点 課題レポート 10点 計100点 *筆記試験の受験と、レポート提出が在宅看護概論Ⅱの点数の条件です。未提出及び期日を守らない場合は、在宅看護概論Ⅱの点数はありません。
テキスト	MCメディカ出版 地域療養を支えるケア

参考文献

- 1) 鈴木和子：家族看護学 理論と実践：日本看護協会出版社：
- 2) Marilyn M.Friedman (訳)野嶋佐由美：家族看護学 理論とアセスメント：へるす出版
- 3) 渡辺裕子：在宅看護論概論編Ⅰ第2版：日本看護協会出版社
- 4) 渡辺裕子：在宅看護論実践編Ⅱ第2版：日本看護協会出版社
- 5) 杉本正子：在宅看護論実践をことばに：ヌーベルヒロカワ
- 6) 川村佐知子：在宅看護論：日本看護協会出版社
- 7) 櫻井尚子：地域療養を支えるケア：MC メディカ出版
- 8) 松野かほる：系統看護学講座専門4在宅看護論
- 9) 高崎絹子：在宅看護論：医学芸術社

授業科目	在宅看護方法論	講師名	佐々木 京子	専門領域 : 看護師・社会福祉士 (病院にて看護師として勤務)		
				実務経験 年数 26年		
			福田 輝和	専門領域 : 理学療法士・介護支援専門員 (理学療法士として病院・訪問看護ステーションに勤務 介護支援専門員として 居宅支援事業所に勤務)		
				実務経験 年数 25年(理学療法士) 年数 5年(介護支援専門員)		
		()	専門領域 : 実務経験 年数 ()年			
開講年次 : 2年次前期		単位	時間数	実務経験年数		
		2	60	7年		
授業科目 目標	1. 在宅看護を実施する上で必要とされる実践に必要な知識・技術・態度を実践的に習得する。 2. 事例を通して、在宅看護における看護過程の展開方法を学ぶ。					
ねらい	1、在宅看護の実践に必要な知識と技術、態度を習得する ①在宅看護における看護過程の考え方と展開方法を学ぶ ②在宅看護に必要な技術の考え方を理解し、技術を習得する ③事例を通して、在宅看護論で学んだ在宅看護の目的、対象理解、看護過程、在宅看護技術を実践的に活用できる					
授業計画						
単元名	回数	教育内容				方法
在宅看護技術 基本技術	1	療養者と家族への権利擁護 (グループワーク)・・・療養者の権利と看護師の責務				講義
	2	療養者と家族への権利擁護 (GW) 発表				
	3	療養者と家族への権利擁護				
	4	1、訪問を支える技術 1) 基本技術 ①訪問の技術・初回訪問の面接技術(事例:初回訪問の事				ロールプレ イニング
	5	初回訪問のロールプレイング・振り返り				
在宅看護技術 日常生活援助 技術	6	日常生活援助技術 生活を支援するための基本的な視点				講義 グループワ ーク
	7	日常生活援助技術 【環境】 事例を使って学びを進める				
	8	日常生活援助技術 【栄養】生活を支援するための基本的な視点				
	9	日常生活援助技術 【排泄】生活を支援するための基本的な視点				
	10	日常生活援助技術 【清潔】生活を支援するための基本的な視点				
11	日常生活援助技術 【移動】生活を支援するための基本的な視点					
在宅看護技術 診療の補助技 術	12	3、医療処置に伴う技術(事例をもとに)				講義 グループワ ーク
	13~ 17	グループワーク ①在宅経管栄養法②在宅酸素療法③在宅人工呼吸療法④CAPD⑤ストーマケア⑥がん化学療法(在宅における医療安全の視点を基盤にグループワークを行う)				
	18~ 20	発表 (授業形式で発表を行う)				
在宅における看 護過程の展開	21	1、在宅における看護過程の特徴・看護過程に沿って特徴を捉える ・アセスメント 2、事例を通しての看護過程の展開				講義 グループワ ーク
	22	事例展開				

	23	事例展開	
	24	事例展開	
継続看護	25	地域包括ケアシステム・	講義
	26	継続看護・退院支援・退院調整	
ケアマネジメント (福田先生)	27	ケアマネジメントとは	講義・演習
	28	ケアマネジメント演習	
在宅における終 末期看護	29	在宅における終末期看護について ①在宅終末期の特徴	講義
評価・まとめ	30	筆記試験(60分)	試験

<備考>在宅看護論は、学びあいながら進めていきます。**グループワークを行い、発表をする・聞くことで学びの共有ができることを期待します。**(グループ学習となります。グループメンバーとして協力し合いながら学んでください)

- ・在宅看護技術の基本技術については、初回訪問の事例および日常生活援助技術及び医療処置に伴う技術演習を行なう中で具体的な注意点や行動を学ぶ。
- ・日常生活援助技術については、各項目を在宅の視点でアセスメントができるようになるための基本的な知識を学ぶ。
- ・診療の補助技術は、患者、家族が管理ができるための視点で学ぶ
- ・看護理論；家族論で学んだ家族理論などが特に重要になってきます。既習の理論を意識して授業を受けてください。
- ・講義最終日に授業評価のアンケートをとります

・ 筆記試験 90点 課題レポート 10点

***筆記試験の受験と、レポート提出が在宅看護方法論の点数の条件です。未提出や期限を守れない場合は、在宅看護方法論の点数はありません。**

MC メディカ出版 地域療養を支えるケア

- 1) 鈴木和子：家族看護学 理論と実践：日本看護協会出版社：
- 2) Marilyn M.Friedman (訳)野嶋佐由美：家族看護学 理論とアセスメント：へるす出版
- 3) 渡辺裕子：在宅看護論概論編Ⅰ第2版：日本看護協会出版社
- 4) 渡辺裕子：在宅看護論実践編Ⅱ第2版：日本看護協会出版社
- 5) 杉本正子：在宅看護論実践をことばに：スーベルヒロカワ
- 6) 川村佐知子：在宅看護論：日本看護協会出版社
- 7) 櫻井尚子：地域療養を支えるケア：MC メディカ出版
- 8) 松野かほる：系統看護学講座専門4在宅看護論
- 9) 高崎絹子：在宅看護論：医学芸術社

あさくら看護学校 授業の受講についてのルール

1. 受講上の注意

1. 受講マナー

- (1) 板書等の撮影、授業を録音・録画することを禁止します。
- (2) 受講に関しては、静粛かつ真剣に受講してください。私語は禁止します。
- (3) 授業担当者からの再三の注意にもかかわらず、受講態度を改めない学生には、授業担当者の判断により教室から退出を求める場合があります。
- (4) 携帯電話・スマートフォン・タブレット等の使用を禁止します。
受講中、携帯電話・スマートフォン・タブレットの電源は、切るかマナーモードにしておいてください。
(講義途中、呼び出し音などがなることは厳禁です)
- (5) 授業中の飲食は禁止します。
- (6) 授業に遅刻して入室しなければならなくなったときは、必ず授業担当者にその旨を報告の上、着席してください。
- (7) 授業中に無断で退出することは禁止します。

* 授業の録音、録画について

授業の録音、録画については、各学校によってさまざまな対応がなされています。本学校では、2点から録画、録音の禁止を行っています。1点目は、看護学校の講義内容の特殊性から講義中の話、学生の名前、患者のプライバシーなど含まれる可能性があります。それらは講義中の学習として話されたものでありますが、録画・録音をした場合、外部に漏れる可能性があります。録音・録画されたものの取り扱いについてのチェックは難しく、それらが更にインターネット上にアップロードされる危険性を考えたら、録音録画は禁止とさせていただきます。

2点目は、我々がなろうとする看護師は、場面での話をきちんと聴く能力が求められます。講義においても、その場その時講師が何を言わんとしているかをきちんと聴き取ることを訓練していただきたいと考えます。それが、聴く能力の獲得につながると考えます。以上、2点から本校では録音録画を禁止いたします。

2. 教室内のマナー

- (1) 消し忘れの板書は消し、清潔な教室を常に心がけましょう。
- (2) 授業終了後、不要な照明や冷暖房は、スイッチを切ってから退出しましょう。
- (3) 教室を利用して飲食をする場合は、ゴミを教室に捨てないで、所定の場所に分別して捨てましょう。
- (4) 机・椅子を移動した場合は元の状態に戻してください。

3．授業アンケート

本学では、授業担当者がより良い授業を行うために、授業アンケートを実施しています。

授業アンケートは、授業期間中に授業改善ミニアンケートやリアクションシート、授業評価といった用紙を使用して、学生の皆さんの意見を確認します。

授業期間内にアンケートを実施することによって、授業をより良くすることができますので、協力をお願いします。

その結果は学校全体として分析し、学生の皆さんがより良い授業を受講できるよう改善を進めていきますので、必ず回答をお願いします。

成績評価の対象にもなりませんので、授業に対して感じた率直な意見や感想を入力してください。

平成 30 年 5 月 24 日作成

単位認定試験受験のルール

1. 受験のルール

- ①授業時間の2/3以上を受講しなければ受験資格はない
- ②試験に無断で欠席した場合は受験資格を失うことになる
(単位認定ができないため進級はできない)

	内容	備考
	<p>事前に受験方法及び試験に関する決まり事を説明を受け理解しておく</p> <p>週番は、早めに出席確認をして、出席していない学生については、クラス内で連絡をとる</p> <p>体調不良者は事前に教務室に来て、教務にその旨を報告し指示を受ける</p>	
1	1. 学生は試験5分前に着席しておく	1. 受験できる体制で着席しておく 2. 5分前になったら入り口のドアを閉める(入室禁止とする)
2	1. 出席確認をする ①出席番号順に着席する	1. 仮に欠席者がいたとして机を前に詰めない
3	1. 出席確認後、 ①机の上に落書きや文字が書かれていないか確認する ②机の中にモノが入っていないか確認する ③机上に置けるもの ・鉛筆(シャープペン)、消しゴム、時計機能だけの時計、シャープペンの芯はあらかじめ入れておけるため不可、その他講師が特別指示したモノ ・ポケットティッシュ、ハンカチは事前に教員にチェックを受けたモノのみ可とする *目薬は持ち込み不可	1. 試験の前日に自分が座っている机上の落書きを消しておくように伝える もし、後でわかったら席にしている学生の責任とし試験が無効になることもある 2. 自分の机と異なるが、引き出しに物が入っていたら着席している人の責任となるため確認をする(教員は試験開始前か開始直後に実際に確認をする)
4	1. 週番は、黒板に指定の記載事項を記入しておく 科目名(担当講師名) 試験時間 退出可能時間 在籍人数 欠席人数・名前 2. 試験問題配布される ①解答用紙を配布されたら、後ろの人に回す(裏にして) ②次に試験問題を配布されたら、後ろの人に回す(裏にして) 3. 試験問題の枚数と解答用紙の枚数を伝えられるため、試験開始後すぐに確認する	*遅刻については、15分以内に教室入っていないければ15分遅刻と認めない。(教室に入った時間が15分以内の場合は認める) 従っ

	<p>4. 問題の質問や落とし物等は必ず挙手する</p> <p>5.遅刻の際 15 分以内であるならば受験可能である</p>	<p>て、教室外で 15 分を超えた場合も受験資格はない</p>
5	<p>1. 教室前の時計を目安に試験開始の合図をされるため、験を開始する</p> <p>① 試験問題枚数と解答用紙枚数の確認をする</p> <p>② 試験問題、解答用紙共に名前の記載をする</p>	
6	<p>1. 試験が始まって落ち着いてきたら、机間巡視が始まる</p> <p>① 机上に文字が書いていないか確認される</p> <p>② 机上に指定されたもの以外がないか確認される</p> <p>③ 受験環境として、机に位置、個人のモノの所在、机間巡視できる幅があるか確認される</p> <p>④ 後ろから、机の中にモノがないか確認される</p> <p>⑤ 試験の受け方で、問題用紙を机から垂らしている・姿勢が悪く斜めで記載しているなどは随時声を出さずに注意をされることがある</p>	<p>1. 教員は試験時間中、監督を行っているため質問等があれば挙手する</p>
7	<p>① 学生はトイレに行きたい場合は申し出る（他教員を呼んでもらうため早めに申し出る）</p> <p>・学生は、問題用紙解答用紙を裏にして席を立つ</p>	
8	<p>1. 途中退出者について</p> <p>①地中退出者は、問題用紙、解答用紙を裏にする</p> <p>②静かに立ち、自分の席から近いドアから退出する</p> <p>③試験後授業がある場合もあるため、待機場所はさくらホールとする（他の授業のことなどはしない）</p>	<p>1. 途中退出は可能であるが、試験時間はその科目の授業時間であるため、他の授業のことや飲食をする時間ではない</p>
9	<p>1. 試験終了 5 分前になったら「試験終了 5 分前です。再度試験問題、解答用紙に名前を書いているか確認してください」と伝えられるため確認をする</p>	<p>1. 枚数が多いものはすべての問題用紙に名前を記入する</p>
10	<p>1. 試験終了の合図をされたら、鉛筆を置いて解答用紙を裏にする。監督の指示に従って、後ろから集める</p>	
11	<p>1. 次の指示がなされるため、指示に従う</p> <p>授業</p> <p>①途中退出者は教室に入る</p> <p>②授業を開始する</p> <p>授業外</p> <p>①他学年は授業中であるため、静かに過ごす</p>	

平成 31 年 3 月 18 日作成

問題用紙・解答用紙返却に際してのルール

- ①返却のルールは、読んで理解しておく
- ②返却に際して、事前に返却する旨の掲示があるため必ず掲示板で確認する。
- ③点数 57 点以上 60 点未満の答案用紙はコピーをする
- ③解答用紙、問題用紙を返却後、模範解答を伝える
- ④ 採点間違いの申告は、模範解答を伝えたのち 10 分以内としそれ以降はどのような申し出も受け付けない
 - ・単純な採点ミスは受け付けるが、記述式の問題については受け付けない（特に外部講師の記述式については受け付けない）
- ⑤返却時の環境
 - ・返却の場所は、整理された環境で返却を行うことになっており、掲示板で事前に指示がある
（基本的には、自教室以外の場所で行うこと）
 - ・返却されたら、各自座って確認する
（他の学生の席に移動してはいけない）
 - ・採点間違いを申告しないものは、返却場所から速やかに退出する
 - ・一度退出した学生は、再び返却場所に戻って対象科目の試験について異議申し立てをすることはできない
 - ・返却の際、鉛筆、消しゴムの持ち込みを厳重に禁止する
（単色（青色）ボールペンのみ持ち込み可・消しゴム・鉛筆の持ち込みは不可とする）

令和元年 6 月 27 日
令和元年 7 月 2 日改正

再試験・追試験の受験料支払いについてのルール

あさくら看護学校細則

(追試験)

第22条 本試験を受けることができなかった場合、追試験を受けることができる。

- 2 追試験は、次の各号をすべてみなさなければ認められない。
- 3 追試験が認められた者は、当該試験の3日前(17:00)までに事務室に受験料を納付しなければならない。

***追試験は、やむを得ない場合を除いては認めない方針である**

(再試験)

第23条 本試験に不合格となった場合、再試験を行う。

- 2 再試験を希望する者は、事務室に再・追試験願と受験料を添えて当該試験日の3日前(17:00)までに提出しなければならない。

【運用】

- 1、 土曜日・日曜日・祝日・及び学校が規定した休業日を入れない3日前とする

運用例

水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	試験日
	3日前 支払最終日	2日前			1日前	当日

*木曜日の17:00までに支払いを行う

水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日 (祝日)	試験日
3日前 最終支払日	2日前	1日前				当日

*水曜日17:00までに支払いを行う

*土曜日・日曜日・祝日及び学校が規定した休業日を入れないとは・・・

学則第7条

休業日は、次の通りとする

- (1) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (2) 土曜日および日曜日
- (3) 季節休業は学年を通じて10週間とする

夏季休業 6 週間、冬季休業 2 週間、春季休業 2 週間

(4) 前 3 号に定めるもののほか、校長の定める日
とあるため、上記 1 号・2 号・4 号とする。

・3 号に関しては、やむを得ない場合、季節休業時に再試験・追試験を行うこと
があるため、その限りではない。

(季節休業中も、原則試験日 3 日前の支払いとする)

・土曜日、日曜日が出校日の場合(てふてふ祭・宿泊研修等)でも、土曜日・日
曜日となるため 3 日前には入らない。

結論

3 日前とは、下記に挙げた休業日以外の日(平日)とする

- 1、 国民の祝日に関する法律に定める休日
- 2、 土曜日および日曜日
- 3、 前 3 項に定めるもののほか、校長の定める日
- 4、 土曜日、日曜日が出校日の場合(てふてふ祭・宿泊研修等)でも、土曜
日・日曜日となるため 3 日前には入らない。

2、支払いができなかった場合の対応

*払う意思がない(受験の意思がない)ものとして受験することはできな
い。

再試験を受験できないということは、単位認定ができないということ
であり、進級・卒業に関係する

*不測の事態も考えられるため、掲示されたらできるだけ早めに支払い
をすること

*個人的に支払いについての促しはしない。自己責任として、受験不可と
なる。

平成 30 年 10 月 26 日作成